

～BCGは、結核の予防接種です～

対象者：1歳に至るまで（1歳の誕生日前日まで）の間にある児※沖縄市に住民登録をしている方

標準的な接種期間：生後5ヵ月～7ヵ月児の間

※病気にかかりやすい年齢を考慮して定められた期間です。

これを過ぎて対象者であれば、無料で接種を受けることができます。

接種回数：1回



●結核について

《結核》は結核菌の空気感染によって起こる感染症です。

我が国における結核の現状は、医療が発達した現在でも毎年約2万人前後が感染し、感染後1年以内に発病することが多いですが、結核菌は体内で長く生存できるため、感染して10年、20年も経ってから発病することもあります。症状としては長引く咳・たん、長期にわたる体調不良（微熱や倦怠感が続く）、体重の減少などがあります。乳幼児は結核に対する抵抗力が弱いため、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になったりすることもあり、重い後遺症を残すおそれもあります。

《ワクチン接種による3つの予防の効果》

- ① 結核の発症を52～74%予防。
- ② 重篤な髄膜炎や全身性の結核を64%～78%予防。
- ③ 接種後の予防効果は10～15年程度続くと考えられている

《接種を受ける前に医師と相談が必要な方》※必ず医師と事前によく相談してください。

●結核感染の疑いがある者

●過去に結核患者との長期の接触があった者

●コッホ現象について

以前に結核に感染している場合には、通常の接種後1週間～10日以内(多くの場合3日以内)に接種部位が赤くなったり、はれたり、化膿することがあります。通常、特別な処置は必要なく、そのまま経過観察を行います。この現象が見られた場合は、速やかに接種した医療機関で診察を受けましょう。また、こども相談・健康課へご連絡下さい

BCG予防接種の後
10日間程度は、
接種部位を毎日観察しましょう。



●BCG接種後の副反応

接種後しばらくはほとんど変化が見られませんが、10日くらいたつと、針痕に一致した箇所に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができます。この反応は接種から5～6週間ほど経過した頃に最も強くなりますが、その後はかさぶたができて、接種後3ヵ月までには小さな傷あとを残して治ります。

これは、BCG接種後の正常な経過であり、自然によくなるので、包帯をしたり、ばんそうこうなどを貼らずに、そのまま清潔を保ちましょう。

ただし、接種後3ヵ月を過ぎてても、接種部位がジクジクしているような場合には医師の診察を受けましょう。

また、接種した側のわきの下のリンパ節がはれることがあり、ごくまれに、はれたリンパ節が化膿し、自然にやぶれてうみが出る場合があります。このような場合には医師の診察を受けましょう。

重大な副反応として、ごくまれにショック、アナフィラキシー、全身性播種性BCG感染症、骨炎、骨髄炎、骨膜炎、皮膚結核様病変などが報告されています。

定期の予防接種後に起きた健康被害が、予防接種によるものと国で認定された場合には、予防接種法に基づく補償（医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料）を受けることができます。

沖縄市役所 こども相談・健康課 予防係 TEL 939-1212(内線2232・2233)

※この説明書の情報は平成31年3月現在のものです。